

仲間との出会い



小野 祐理
(社会学部)

私は4年間、アルティメットというスポーツのサークルに所属していました。アルティメットとは、フリスビーを使って、バスケットボールとアメリカンフットボールを混ぜたルールで競技する団体スポーツです。私は2年生から女子キャプテンを務めました。

高校を卒業するまで、一度も団体スポーツの経験がなかった私が、大学に入り初めてチームで勝利を目指す環境に入りました。女子キャプテンになってから、「キャプテン」という役割の重さを感じることも多々ありました。それぞれがゼミやアルバイトなど、サークル以外の大切なコミュニケーションを持っていくため、サークルに対する思いもそれぞれ違い、そこをひとつにまとめてチームを作っていくことに苦心し

ました。1年生の時に8人いた女子の同期も、1年後には4人にまで減っていました。チームのモチベーションと効率の良い練習をするため、キャプテンが一方的に話すのではなく、メンバー一人ひとりの意見を言いやすいミーティングになるよう工夫しました。

4年間最後の試合は東日本24チーム中22位と、決して良いと言える結果ではありませんでした。しかし、学年関係なく一つのチームとして最後まで精一杯戦えた大会になりました。4年間で学年関係なく、同じ目標に向かって一緒に戦ってくれる「仲間」ができました。悔しいことや迷ったこともたくさんありましたが、頼もしい仲間に出会えたことが、私の4年間の宝物です。



2012年8月23日 学生選手権大会東日本予選(引退の大会)で。3日目左から3番目

巣立ちゆく君に



小野 順
(社会学部)

「社会学」を学びたいと法政大学に進学しましたね。多摩キャンパスの豊かな自然の中でのびのびと学生生活を謳歌し、充実

した4年間だったと思います。ゼミやサークル活動を通して多くの仲間と出会えたこともこれからの大きな財産となります。

父も母も法政大学後援会活動を通して、自分の学生生活では経験しなかった多くのことを学びました。人との出会いが人生をより豊かなものにしてくれます。

かけがえのない出会い



岡 将行
(スポーツ健康学部)

私の大学生活を振り返ると出会いに恵まれた4年間でした。学部の友人に誘われて始めたライフセービングサークルをきっかけに他大学の仲間や海で知り合った社会人の方々など多くの出会いがあったからこそ今の私がいるのだと思います。

ライフセービング活動はつらく厳しいことばかりでした。初めて海で監視員として立てるようになるまでに、海や自然の怖さ、人を助けることの大変さを知り、厳しいトレーニングを行う日々は何度も挫けそうになりました。監視員として動けるようになっても事故やトラブルに直面し、無力な自分に嘆くこともありました。それでも共に励まし合い、競い合って支えあいながら仲間と過ごした夏の日々は一生忘れられません。自分が迷っているときに道を示して

出会いに恵まれたね!



岡 雅代
(社会学部)

将行くん、卒業おめでとう! どうしても入りたかったスポーツ健康学部が入学する年にできるとわかって喜んでいただけがまるで昨日のことのようです。ライフセー

くれた社会人の先輩。うれしいこと、悲しいこと、つらいこと、楽しいことさまざまな思い出を共有できる仲間を持てたことが何よりも自分の財産です。

大学の名を背負って出場した全日本選手権では、チームの歴代最高位を獲得することができました。海を背にどんなチームよりも輝きを放つ「オレンジ魂」は何があっても忘れられません。

大学生活で得たものを社会に生かすために、これから消防士として生きていくことになりましたが、私をここまで育ててくれた家族や仲間、最高の感謝を贈りたいです。この大学4年間はかけがえのない素晴らしい日々でした。本当にありがとうございました。



2012年9月23日 第27回全日本ライフセービング選手権大会 御宿海岸にて。中列右から5番目

ビングのサークルに入り、同じ志を持つ多くの仲間に出会い、数々の貴重な経験を積み重ね、本当に充実した大学生活を過ごせましたね。

私もあなたのおかげで後援会活動に参加することができ、楽しい4年間となりました。これまでの良き出会いを大切に、あなたの決めた人のために働きたいという仕事に向かって、一歩ずつ前進して行って下さい。

4年間の日々



木田 祐輝
(情報科学部)

私は情報科学部デジタルメディア学科で4年間学び、CGやプログラミングといった専門的な知識を身に付けることができました。また、アルバイトやサークル活動を経験し、友人たちと楽しい日々を過ごすなど、とても充実した大学生活を送ることができたと思います。その中でも特に印象深い思い出は、友人たちと共に「ゲームを作ろう」とした四苦八苦の日々です。

プログラミングを学び、簡単なアプリケーションを作ることができるようになった私と友人たちは、協力してゲームを作ろうと決めました。大学の講義でプログラミングの基礎を学びましたが、実際にそれを使って「何かを作る」という経験を積まないう限り自分の実力にはならないと思い、ゲーム製作なら楽しくプログラミングが学

べると思えました。友人たちと役割を分担し、スケジュールを決め製作を始めると、すぐに壁にぶつかりました。講義で基礎を学びましたが、実際に「何かを作る」段階ではそれだけでは足りないのだと実感し、自分たちの知らない知識を埋めるために大学の図書館に通い詰め、先輩に相談するなどして必死にプログラムを組み上げました。壁にぶつかるたびに挫折しかけましたが、友人たちと協力してゲーム製作をするというこの経験を積むことで、日々努力することの大切さ、協力して「何かを作る」との楽しさを学ぶことができた。そして、共に大学生活を過ごした友人たちとの思い出は、私の一生の宝物になりました。



2013年1月8日 友人たちと大学研究室にて。左から2番目

贈る言葉



木田 修二

卒業おめでとう! 今まで親として何を与えられたのだろうか?という思いの中で、ここで良い機会をいただきましたので、贈る言葉を書きます。自分を客観的に見つめ

られる冷静さと論理性を持ち、損得ではなく自分の思うことを大切に行動し、そして後悔しないこと、物事は計算通りには行かないのが当たり前、想定外だから仕方なしではなく、課題に堂々と立ち向かっていく逞しさを持ってほしい、それがあれば前途洋々だよ。大学は教わる場ではなく学ぶ場、大学院では本当の意味で学んでほしいと思います。ガンバレ!

貴重で大事な4年間



伊賀上 烈
(社会学部)

父も祖父もやっていたラグビーを高校から始めた私がラグビーができる喜びを感じた4年間でした。そして大学ラグビーの中でも、トップレベルでラグビーができたこの4年間は一生の財産になると感じています。

全国から集まった選手と練習、試合を経験し、数多くの怪我もした中で先輩や同期に励まされ、そして共に4年間の寮生活を過ごしたことから、仲間との絆も深まりました。その間にたくさんの人と出会い、人間として大きく成長できたことは間違いないと確信しています。目標であった「大学日本一」にはなれませんでした。それを實現できる能力を持っている後輩たちにさらなる成長を期待し、OBとなった立場から選手達を応援していきたいと思っています。

社会人としてはラグビーを続けませんが、これからの目標として社会人1年目と



2012年11月18日 東海大学(リーグ戦チャンピオン)との練習試合にて。ボールを持つのが筆者

ありがとうございます

伊賀上 竜也
(社会学部)

烈、卒業おめでとう。父親の我儘から私と同じ大学に行きなさいと言ったから、あつと言った4年間でしたね。高校から祖父、父親と同じラグビーを始めてから本当につらいことの多かった7年間でした

ね。でも泣き言を一言も言わないで最後までやりぬいた君を本当に誇りに思いますし、楽しい夢を見せてくれたことに感謝として「ありがとう」の言葉を贈ります。

春からは新社会人として君の新しい人生のスタートです。これからは持ち前の頑張りや未来を切り開いていくことを見守りたいと思います。

最後にもう一度、本当に「ありがとう」そして「頑張れ」

大学生生活を振り返って



山本 恵未
(生命科学部)

思い返せばこの4年間でさまざまな経験をし、またさまざまな人と出会い刺激を受け、入学時とは比べものにならないほど成長することができたことと恥ずかしながら自負しています。

その中でも一番私を成長させたことは、趣味になりつつあった旅行でした。友人と、国内や海外、とにかく行ってみたいところに行き、美味しいものを食べ、写真を撮りました。旅先では多くの人に出会い、思い出だけではなく、友人もできました。もちろん全てが順調ということではなく、スリにあって、はったりにあたり、ハプニングもありましたが、どれも笑いの絶えない旅でした。広大な自然を感じる、歴史ある建物や街並みに触れること、現地の人と触れ合い違う価値観に触れることで学ぶことは多く、とにかく大好きでした。



2012年11月17日 イタリアのピサの街にて。左側が筆者

また、法政大学に入学し、東京へ上京し、一人暮らしをしたことで、両親のありがたみを知りました。研究室を通し、理系の世界に触れ、大学生活では、楽しい時を共有し、困難なときはいつも私を支えてくれた、地元にはは出会ったことのない友人に出会うことができました。

まだやりたいことは多く、大学を離れることはとても寂しく思いますが、私の4年間は、毎日が新鮮でただ楽しく、とても充実していました。あつという間の4年間で、法政大学で過ごせて本当によかったと思っています。大学の教授ならびに友人、両親、出会いお世話になった話に感謝しています。ほんとうにありがとうございました！

かけがえのない日々



木村 郁陽
(法学部)

今、私の大学生活は終わりを迎えるようになっています。これまで熊本の実家を長く離れることがなかった私にとって、この4年間の経験はどれも新鮮なものでした。さまざまな価値観を持つ友人たちと語り、アルバイトにも従事し、衣食住を整える家事に苦労もしました。それぞれの経験の中に多くのものを発見できたことで、今の自分は間違いなく大学に入るまでの自分より成長していると実感しています。

特に、岸井大太郎法学部教授の下、経済法を学んだ2年間は、最も貴重な経験です。教授は問題に対したとき、どのように思考するべきかを示してくださいました。思考力が身に付いたのはもちろんのこと、大学に入るまで、学問にろくに向かい合うことがなかった私が、初めて学ぶことの楽しさに触れることができました。学生のうちに、自らの内にある知的好奇心に気づくことができたのは僥倖です。大学には、学びたいことを学ぶことができる体制と、疑問を解決する手立てがあり、私はさまざまな知識を得ることができました。



2011年8月30日 岸井大太郎教授、ゼミの仲間と。最後列左から2番目

最後に私の大学生活を支えてくださった方々、さまざまな影響を与えてくださった方々に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

郁陽らしく



木村 幸孝
玲子

郁陽が法政大学への入学を決めたとき、本当にうれしかった。私も、71年に法政に入学し、大学生活を過ごしたからだ。ここ

で得た、素晴らしい先生や友人らとの出会いは、今でも大きな財産である。君が、こうした環境の中で学び、多くの人に支えられながら成長し、今ここに学舎を卒業することに、私たち両親は感謝の気持ちでいっぱいだ。これからも、「郁陽らしく」歩んで行ってほしい。私たち両親は、そんな君を、全力で応援していくことを約束する。フレ、フレ、郁陽！

甲子園ボウル応援記



佐野 信

(萌子/文学部)

12月16日(日)、甲子園球場で第67回甲子園ボウルが開催されました。東日本代表のわが法政大学トマホークスと西日本代表の関西学院大学ファイターズで学生日本一を争い、第4クオーター残り2秒まで同点の接戦でしたが、最後にフィールドゴールを決められ、惜敗しました。スタンドは法政のオレンジと関西学院のブルーで埋め尽くされ、大変な熱気に包まれました。今年のトマホークスは粘り強い守備からリズムを作り、パスとランを織

大接戦!!残り2秒日本一を逃す!

※()内はお子さまの名前/学部

り交ぜた多彩な攻撃で得点をあげるパターンを得意としていました。甲子園でも持ち味を生かした試合運びで第4クオーターには一時17対10とリードを駆け勝利を確信したのですが、相手の驚異的な粘りで逆転を許してしまいました。

アメリカンフットボールでは、守備の時に相手の攻撃のハドルを妨害するために大きな音を出して応援しますが、父母会・後援会のご父兄が一体となってハリセン・チアステイックでクラウドノイズを出しました。シーズン初め、都啓介主将(スポーツ健康学部4年)は「どんな序列であろうとも『試合の時は、出場している選手がトマホークスの



一本目」という意識を徹底したい」と言っていました。シーズンを通じて試合にでる選手が入れ替わり立ち替わり活躍し、全員の気持が一つになり、チームとして進化していることを感じました。残念ながら勝利を逃しましたが、甲子園での試合はその集大成だったと思います。応援しているわれわれが勇気ももった試合でした。

箱根駅伝応援報告



熊田 敏文

(良平/文学部)

予選会では2年連続で10位と次点に泣いた法政大学オレンジ軍団が3年ぶりに箱根路に帰ってきました。法政は今回を含めると74回目出場となります。

さて、今年は絶対に見せ場を作り、復路優勝した2006年の82回大会以来7年ぶりのシード権を獲得してくれるものと信じ、往路5区と復路6区で熱い声援を送るべく、例年通り元旦の午後に家族全員で箱根入りしました。明けて2日(水)、選手到着までの時間、箱

根神社で初詣を済ませ、後援会応援旗を片手に、いつもの場所まで往路5区アンカー・関口領悟選手(社会学部2年)の通過を待ちます。小田原中継所では13位で棒を受けた関口選手は、なんと5人を追い抜いて8位で通過していききました(その後さらに3人抜いて往路5位という見事な成績でゴールしました)。翌日3日(木)は、宿泊先の旅館前を6区の商品田潤之選手(経済学部4年)が5位の順位をキープして無事に通過していききました。

毎年思うことは、各校の選手が母校の誇りを胸に、汗と涙のしみこんだ襪を必死の思いでつなぎ、10区間217.9キロを走り切るその姿に、人は感動し涙するのだらうという事です。最終成績は、すでにご承知のとおり、往路5位、復路15位、総合9位という見事な成績でした。成田道彦駅伝監督、坪田智夫コーチ、



後援会ホームページのご案内

URL : <http://www.hosei-koenkai.org/>

また、法政大学のホームページを開いていただき、オレンジのインデックスの「保護者の方へ」をクリックしていただいてもアクセスできます。是非一度ご覧になってみてください。



「携帯メール情報」の配信案内

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。六大学野球、アメフト甲子園ボウルや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人一人の力は小さくても、一致団結して盛り上げていきましょう。配信ご希望の方は、下記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールアドレスをお送りください。

koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp

